

2:10 多くの子たちを栄光に導くために、彼らの救いの創始者を多くの苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の存在の目的であり、また原因でもある神に、ふさわしいことであつたのです。

2:11 聖とする方も、聖とされる者たちも、みな一人の方から出ています。それゆえ、イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥とせず、こう言われます。

2:12 「わたしは、あなたの御名を兄弟たちに語り告げ、会衆の中であなたを賛美しよう。」

2:13 また、「わたしはこの方に信頼を置く」と言い、さらに、「見よ。わたしと、神がわたしに下さった子たち」と言われます。

2:14 そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、

2:15 死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。

2:16 当然ながら、イエスは御使いたちを助け出すのではなく、アブラハムの子孫を助け出してくださるのです。

2:17 したがって、神に関わる事柄について、あわれみ深い、忠実な大祭司となるために、イエスはすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それで民の罪の宥めがなされたのです。

2:18 イエスは、自ら試みを受けて苦しめたからこそ、試みられている者たちを助けることができるのです。

御子が肉体をお取りになったことの意味が語られています。神は「(人間のための)救いの創始者を、多くの苦しみを通して全うされ」ました。すなわちイエス様は苦しみによって救いの創始者となられたのです。苦しみがふさわしいとは何と謙った神様の思いでしょうか。

11節からは御父と御子とが区別しがたいほどに一体で表されていることがわかります。まさに御子は神なのです。

その神が判断なさったことは、「子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。」というように、人となることでした。それがなければ私たちは「一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた」ものなのです。

まさにイエス様は大祭司として、人間の側に立ってとりなし、自らをそなえものとして罪の赦しを成し遂げてくださったのです。そのために「試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることがおできになる」というのですから、何と感謝で何と驚くべきことでしょうか。これまで信じられていないなら、従いきていないなら、もう一度イエス様のことを思って、新たな心にしていただきましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

